

名家連ニュース

令和4年1月26日(水)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.846号

愛知県新体育館のバリアフリー整備のための関係団体ヒアリング

意見書（名古屋市精神障害者家族会連合会池山副会長提出）

愛知県新体育館は大相撲名古屋場所や各種スポーツ競技会、コンサートや各団体の大掛かりな祭典や集会など多彩なイベントが行われることと思われます。障害のある人もない人も等しく参加できる設計や配慮が必要不可欠であると考えます。

その中で、当然設置される救護室についてですが、精神障害者の対応を念頭に設計内容及び救護体制を考慮して下さい。

《救護室の設計について》

通常の救護室の他、周りを気にしないで静かに休める精神専用の部屋とベッドを用意して下さい。

※ 精神障害者は一般的、身体的な救護ではなくメンタル面での救護であることをご理解ください。従って、静かに落ち着いて心身が休める空間・部屋・ベッドが必要になります。



《救護の体制について》

精神。疾患のスキルを持ち合わせていない救護者では、状況を悪化・混乱させる場合もあります。

※ 専門医及び精神看護に精通した看護師又は精神保健福祉士の配置が必要です。落ち着くのを静かに見守るなど状況を伝えやすい対応をして下さい。

矢継ぎ早の質問やせかせるような対応、大きな声は慎んで下さい。

※ 状況によっては、本人の了解のもとで医療機関に繋げる（移送）手配が必要な場合もあります。そうした判断・対応が成しうる専門医・支援者の配置が必要です。その際は、必ず専門医又は支援者（看護師、精神保健福祉士）が同行するようにして下さい。こうした配慮を省略して警察対応に委ねる乱暴な手法は厳に慎んでください。



精神障害者は、こうした受入態勢がないために、様々な不安に駆り立てられてイベントに参加したくても参加を控えざるを得ない現実を直視して下さい。精神障害者にも人並みに「楽しみ・喜び・感動する」…そうした場へ安心して参加できる環境を提供して下さい。

ユニバーサルゾーンに対する障害者団体連絡会からのご意見

意見書（名古屋市精神障害者家族会連合会池山副会長提出）

1 今後の具体的整備か所に関するもの

・ユニバーサルゾーン整備の一覧表から、遅々と進まない状況が感じとれる。1982年(S57)から2021年(R3)に至るまで31施設が整備された。その間約39年の歳月が経過している。名古屋市内にはまだまだ多くの障害者施設が点在していると考え。年に1箇所の整備では、この先何年かかるのか。・対象箇所については市内各施設への公募も考慮され、現地調査、研究さらに地元住民へのアンケートの等々の実施。現状に向きあった速やかな対応に期待する。



皆さんの声を各整備計画事業や福祉のまちづくり委員会に 反映させましょう

現在、東山動植物園整備、栄地区整備、名古屋駅周辺整備、愛知県新体育館整備、瑞穂競技場整備、障害者スポーツ会館整備（西区役所跡地）、ジブリパーク（愛・地球博記念公園跡地/モリコロパーク内）、名古屋城木造天守閣等整備、鶴舞公園整備等々、リニア新幹線や第20回アジアパラ競技大会絡みの整備計画が進められています。

また、全ての整備計画において、バリアフリー法を担保するために障害者団体の意見を聴取し、整備事業に反映させるための諸会議も現在進行形で開催・準備されています。

名古屋市精神障害者家族会連合会も諸会議に参画して、精神障害者も安心して訪れることができる施設整備を求めて、上記のような意見を述べさせていただきます。

また、名古屋市では「バリアフリー法」に基づいて「福祉のまちづくり委員会」が設置されており、平成22年より名古屋市精神障害者家族会連合会も構成員として参加することができます。「福祉のまちづくり」への忌憚のないご意見をお寄せください。

各家族会及び家族会員の皆さん!! 積極的なご意見をお待ちしています

家族会代表者会議においても貴重な意見が提起されました

1月16日（日）の第4回家連家族会代表者会議では、各整備事業計画において下記内容も取り上げてほしいとの要望がありました。

「?マーク（インフォメーション）・案内所の設置」「判りやすい案内版の掲出」「スマホのQRコードで道案内を表示」などの貴重な意見が出されましたので今後の各種会議に反映していきたいと思えます。（会議担当者）



ピアサポート活動紹介 ②



ノーチラス会名古屋

<http://bipolar-disorder.or.jp/branch/nagoya>



はじめまして、私は、ノーチラス会名古屋の世話人代表とノーチラス会本部の副理事長の窪田信子と申します。7年前、双極性障害の診断を受けました。友人からの勧めで受診につながり、診断後に双極性障害の事を調べているとノーチラス会を知りました。早速、電話相談をした時は、家族の立場の相談員の方に対応いただきました。『ノーチラス会には双極性障害の仲間が沢山いますよ。名古屋支部は無いので作ったらどうですか?』と背中を押され、当時、人生最悪の鬱状態で一人暮らしで頼れる家族も無い状態の私は、仲間作りの気持ちでノーチラス会名古屋支部を作る運びとなりました。

本部は東京品川区にあります。理事長は精神科医のドクターなので医療との結びつきの強い会となっています。電話相談も無料で利用できます。相談員は、双極性障害に詳しい心理士・臨床心理士・薬剤師・産業カウンセラー・ピアカウンセラー、時々精神科医の理事長が対応します。私自身もこの電話相談で人生が救われました。そして現在はピアカウンセラーとして電話相談員もさせていただきます。

ノーチラス会の集いは双極性障害に関する様々な経験や知識を、同じピアの仲間達から語って頂くことを通じて、これまで決して感じる事の出来なかった安心感を得られる場所の一つです。もし皆さまの周りに双極性障害で困っている方がいらしたら、是非、『ノーチラス会』の事を教えてあげてください。

代表者会議で出された地域生活支援拠点（住宅問題）等は国の動向含め次号でお知らせします